

第2回 ATF コンファレンス 開催記

第2回 ATF コンファレンスが2024年11月17日(日)~19日(火)、沼津・プラサヴェルデにて開催されました。昨年の第1回に続き、設立趣意を振り返り、より幅広い交流の機会を設ける為に、研究会員、評議員、理事と財団関係者全員を対象とし、さらに外部の講演者、奨励賞授賞者、研究助成採択者、財団アルムナイも招待いたしました。参加者80名、財団関係者参加率78%(前回72%)と大勢が集まり、招待講演、研究講演、参加自由な研究会、そして深夜まで続いたナイトセッションと、活発で有意義な2泊3日の交流となりました。

冒頭に遠藤守信理事長から挨拶がありました。

当財団は設立から31年が経過しましたが、日本の科学技術の発展を支援するため、真摯に運営を進めて参りました。しかし、この時代は「失われた30年」とも言われ、世界の中で日本の産業経済や科学技術の輝きが失われ、日本のプレゼンスが低下しています。現在、国を挙げてトップダウンの施策が講じられていますが、当財団では「ボトムアップ」を通じて、存在感のある活動を進めたいと考えています。



昨年より開始したATFコンファレンスでは、この「ボトムアップ」による貢献を目指し、様々な分野で活躍する研究者や技術者が一堂に会し、分野を越えて交流や議論を深める「プラットフォーム」となることを目指しています。

このプラットフォームにおいて、マーク・グラノヴェッター博士が提唱した『Strength of Weak Ties (弱い紐帯の強み)』の事例のように、「弱い紐帯」(ちょっとした関係)から新鮮な情報や新たな視座を得ることで、皆さんの仕事の発展に繋がり、さらに財団が創造的なコミュニティとなることを願っています。

参加された皆さんには、本音の議論、更には懇親会などでの歓談を通して、有意義な3日間となる事を祈念いたします。また、日頃より当財団の活動に対して多大なるご支援を賜っているセイコーインスツル株式会社に対して、厚く御礼申し上げます。

【招待講演】

- 大野英男氏 東北大学 総長特別顧問
「未来を拓く研究大学」
- 東北大学を例として -
- 沙川貴大氏 東京大学 教授
「情報熱力学とその展開」



<大野英男氏>



<沙川貴大氏>

【鼎談】 「これからの研究のあり方 - 楽しさ・国際化等、ATFへの期待 -」

- 一杉太郎氏 財団フェロー、元界面ナノ科学研究会代表
齊藤英治氏 財団フェロー、前スピントロニクス研究会代表
柴田直哉氏 財団フェロー、前界面ナノ科学研究会代表
渡邊力也氏 バイオ単分子研究会代表
杉原加織氏 高機能センサ研究会代表



【奨励賞 授与式と受賞講演】

安井隆雄氏 東京工業大学 生命理工学院
「ナノワイヤを基盤とした次世代尿解析技術の創出」

【研究助成 成果発表】

石部貴史氏 大阪大学 助教
「有機-無機ハイブリッド型ナノ構造含有熱スイッチの性能向上」
関貴一氏 弘前大学 助教
「高感度イオン検出を可能とする二次元生体 ナノデバイスの創成」
堀井和広氏 岐阜大学 助教
「生物物理学的手法を駆使した超音波による蝸牛内ナノ振動の実証」
許斌氏 東京大学 特任助教
「二次元ヘトロ構造を用いたコヒーレント フォノンエンジニアリング」
橋川祥史氏 京都大学 助教
「共役ナノカーボン複合体の創製と物性解明」



<奨励賞 授与式>



<研究助成 成果発表>



<懇親会での歓談>

【5 研究会開催】

(代表)

高機能センサ研究会 (杉原加織 東京大学)
バイオ単分子研究会 (渡邊力也 理化学研究所)
ナノメカニクス研究会 (土方亘 東京科学大学)
界面ナノ科学研究会 (千葉大地 東北大学)
量子物質研究会 (越野幹人 大阪大学)

